

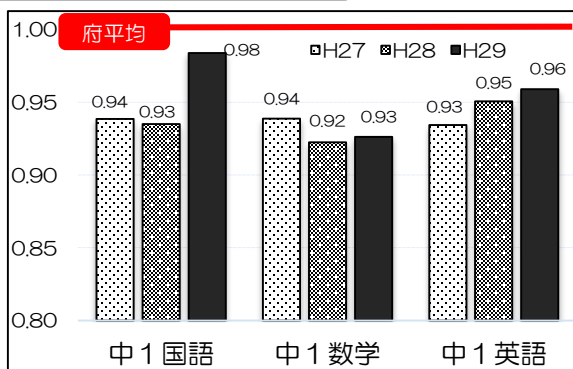
調査の概要

- 調査実施日 平成30年1月11日（木）
- 調査の目的
 - ◇大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒の課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
 - ◇市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組みを通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
 - ◇学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
 - ◇生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。
- 調査内容
 - ◆学力に関する調査 1年生（国語・数学・英語） 2年生（国語・社会・数学・理科・英語）
 - 2年生の社会・理科は各校の指導計画に応じて「A問題」と「B問題」から選択します。本市においては、今年度は、社会ではA問題を4校、B問題を1校が選択し、理科ではA問題を1校、B問題を4校が選択しました。学校別の平均点が特定されることから、2年生の社会と理科についての学力調査結果は記載していません。
 - ◆学習状況に関する調査（生徒アンケート）各教科2問ずつ
- 調査参加者 1年生（府全体 64,498人 うち、本市参加者 657人） 2年生（府全体64,747人 うち、本市参加者 623人）
 ※教科や出題範囲が限られていることから、中学生チャレンジテストにより測定できるのは学力の特定の一部です。

1年生

教科別平均点・対府平均比経年比較

	国語	数学	英語
本市平均点	56.4	54.3	69.5
大阪府平均点	57.4	58.6	72.5
対府平均比	0.98	0.93	0.96



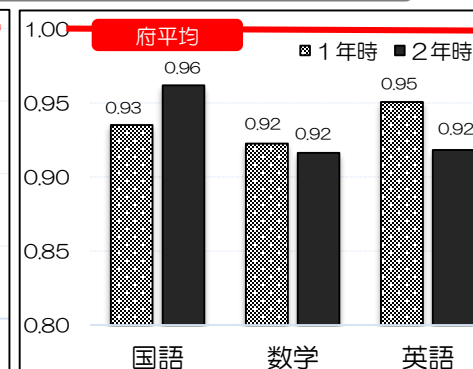
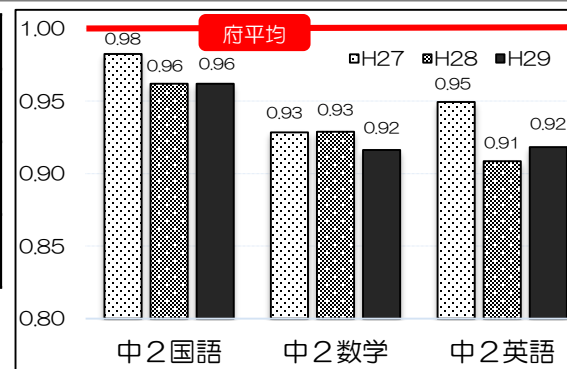
対府平均比とは、大阪府平均を1としたときの本市平均の値です。

2年生

教科別平均点・対府平均比経年比較及び同一集団での対府平均比経年比較

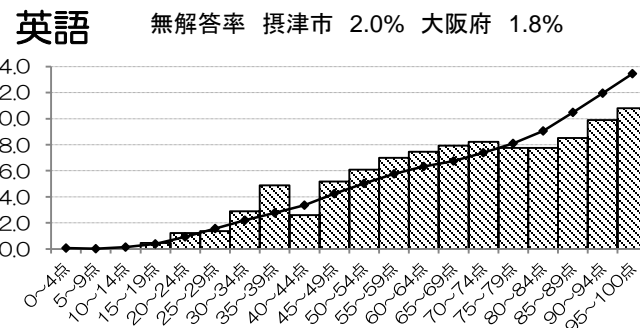
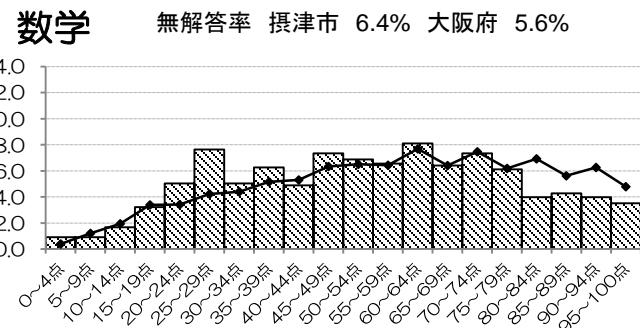
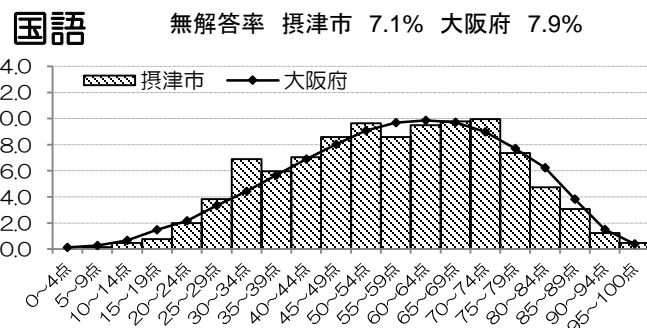
	国語	数学	英語
本市平均点	67.8	54.7	54.5
大阪府平均点	70.5	59.7	59.4
対府平均比	0.96	0.92	0.92

社会B問題、理科A問題を選択した学校がそれぞれ1校だったため、学校別の平均点が特定されることから、社会と理科の結果は記載していません。

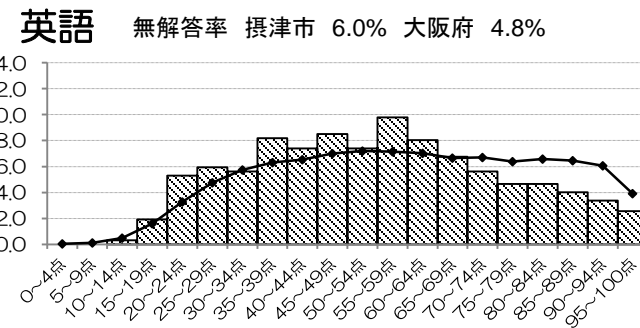
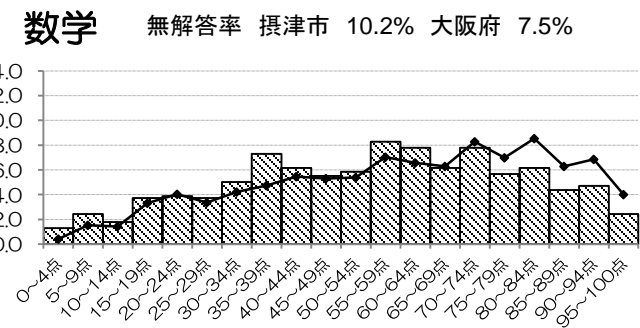
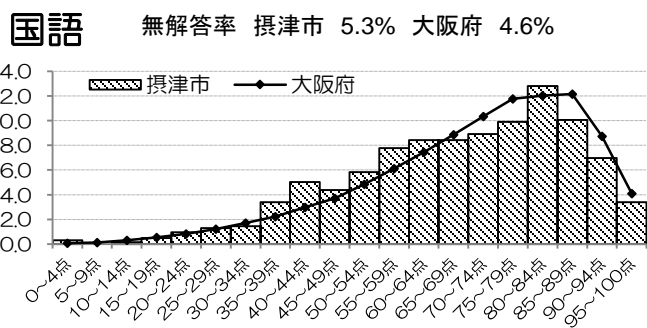


教科別得点分布・無解答率

1年生



2年生



調査結果について

【教科別平均点・対府平均比経年比較】
 1年生、2年生ともに、全ての教科において、府全体の平均点を下回っています。しかし、対府平均比は、1年生では全ての教科で昨年度よりも府平均との差を縮め、特に国語では府平均まであと1点、という結果でした。
 2年生も国語と英語では昨年と同程度か、わずかに府平均との差を縮めています。この生徒たちが昨年度1年生だった時の対府平均比と比べると、数学・英語では府平均との差が広がっていますが、国語では府平均との差を縮めています。

【教科別得点分布・無解答率】
 国語では、得点分布が府の傾向と近似してきましたが、数学・英語では上位層が少なく、下位層が多いことが依然として課題です。
 2年生数学では無解答率が高いことも課題です。

今後に向けて

- 教育委員会では、市内各校が調査の結果分析を生かし、学校全体の状況はもちろんのこと、生徒一人ひとりの学力の課題を把握し、適切な指導や支援を行う取組みを以下のように支援していきます。
- 市全体の児童生徒の学力状況について分析し、各小中学校へ課題の周知を行うとともに、各校の「学力向上プラン」の進捗状況を確認し、指導・助言と支援を行います。
- 各学校では、結果から一人ひとりの課題を分析し、指導します。教育委員会では、こうした取組みのための支援員等の派遣を継続していきます。
- 新学習指導要領実施に向け、教員の授業力向上のための研修をさらに充実させるとともに、各中学校区で行う、小中合同研修を支援し、義務教育9年間を見通した教科指導の充実を図ります。
- 摂津SUNSUN塾（小学6年生・中学1年生対象）を全中学校区で開催し、望ましい学習習慣の定着と学習機会の充実に努めます。

授業についての意識調査

生徒アンケートは、毎年同じ内容で各教科2問、授業についての質問項目があります。大阪府全体の傾向と比較することと、今年度の2年生が昨年度1年生であった時との比較のため、平成28年度1年生の結果も記載しています。

【授業の内容理解】

〇1・2年生ともに、全ての教科で「授業の内容がよくわかる」と回答した生徒の割合が、府全体の割合より低い結果でした。特に、英語と理科でその差は大きくなっています。

【教科の学習への主体性】

〇1・2年生ともに、全ての教科で肯定的な回答※の割合が府全体の割合よりも低い結果でした。特に、2年生の英語、社会、理科でその差が大きくなっています。

〇2年生の国語では、「自分の考えを書くとき、考えの理由がわかるように気をつけている」という肯定的な回答の割合が、昨年度1年生の時よりも高くなっており、学習への主体性が高まっていることがわかります。

引き続き、このような質問項目で生徒が肯定的に回答できるよう、授業改善を進め、学習意欲の向上に努めます。

※肯定的回答の割合とは、選択肢のうちの「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した合計を表します。

チャレンジテストについては、大阪府全体の調査結果とともに、「ワークブック」や「かだめしプリント」などの学習ツールが大阪府教育庁市町村教育室小中学校課のWebページに掲載されていますのでご利用ください。

ワークブック問題

<http://www.osaka-c.ed.jp/kate/karicen-folder/workbook-for-pref/workbook-index.htm>

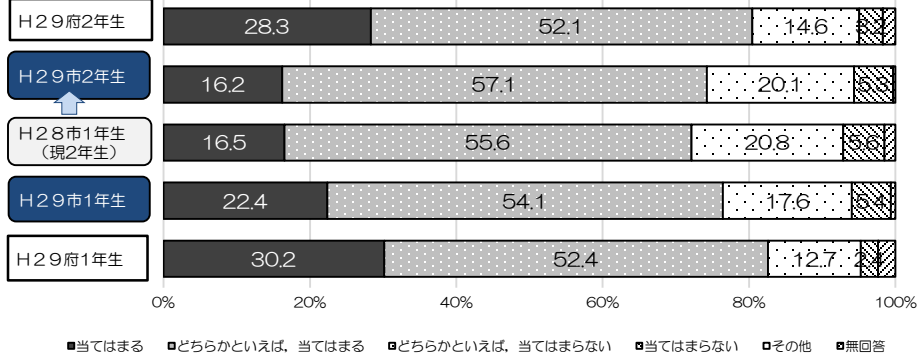
かだめしプリント

<http://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/chikarasyoukai/index.html>

国語

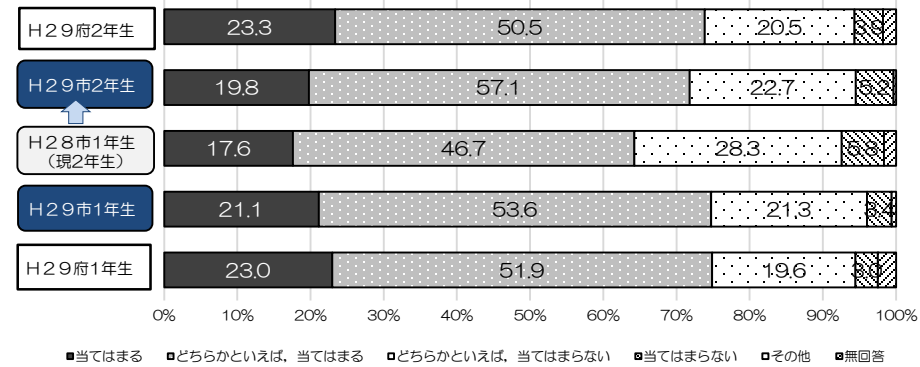
授業の内容理解

国語の授業の内容はよくわかる



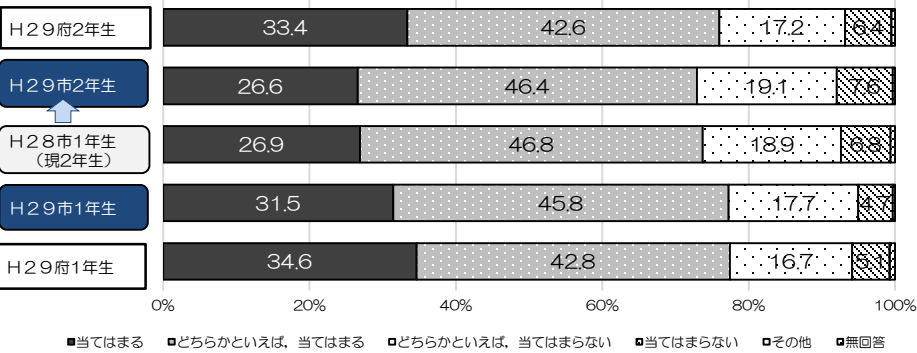
教科の学習への主体性

自分の考えを書くとき、考えの理由がわかるように気をつけている

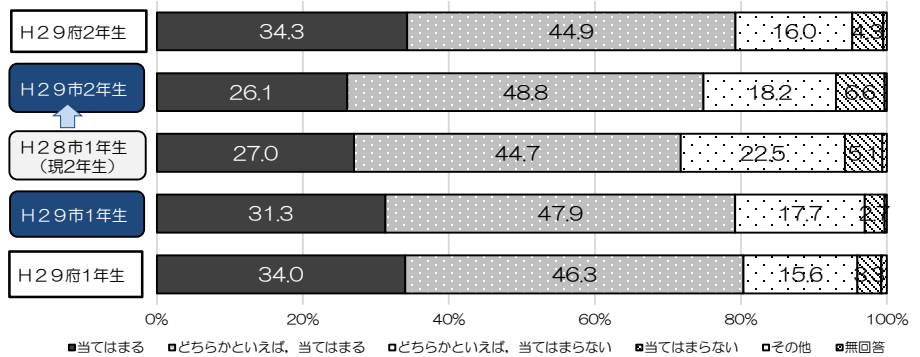


数学

数学の授業の内容はよくわかる

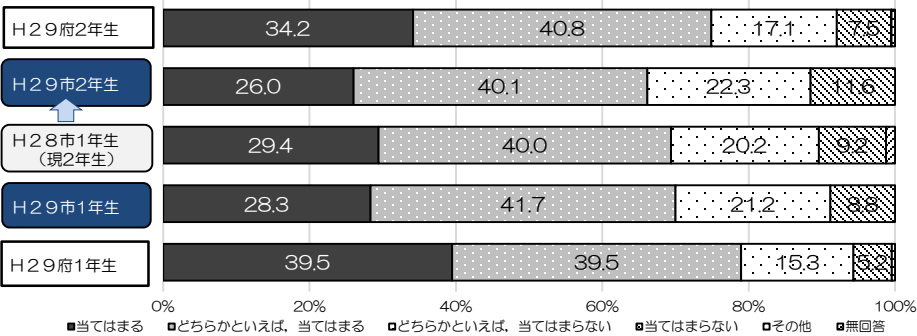


公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている

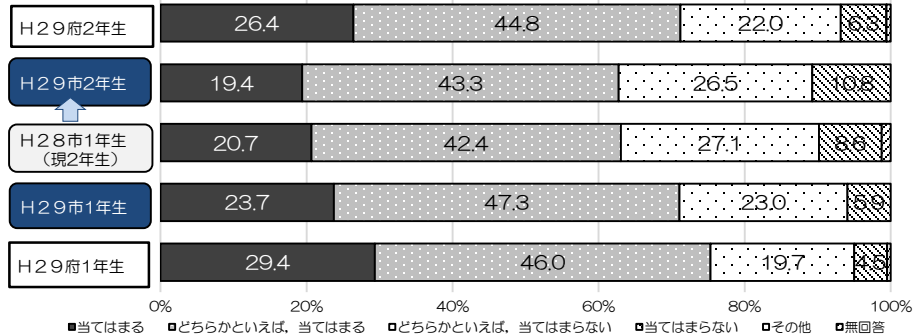


英語

英語の授業の内容はよくわかる

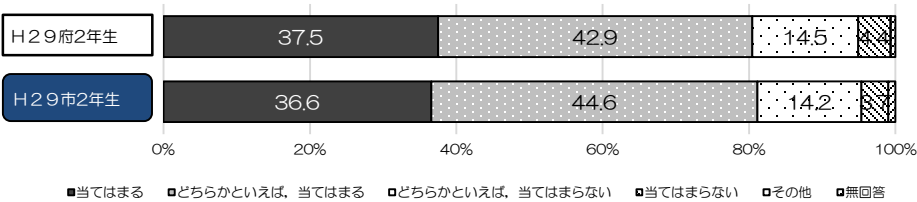


自分の考えを表現するとき、相手に伝わるよう工夫して話したり、書いたりしている

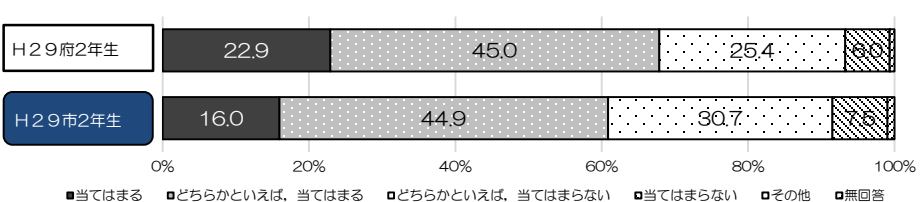


社会

社会の授業の内容はよくわかる

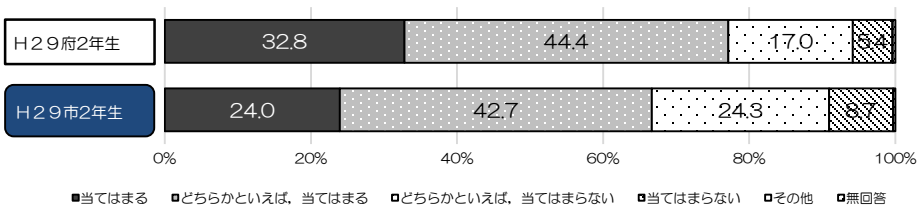


目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている



理科

理科の授業の内容はよくわかる



自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている

